

## 名古屋臨床神経病理アカデミー50 回記念ミニシンポジウム テーマ「精神疾患と神経疾患の再癒合」

精神神経疾患は、その文言道理、精神症状と神経症状をあわせもった疾患の総称である。日本では精神医学と内科学の近代化の立役者の呉秀三と三浦謹之助が連名で、1901年に日本神経学会を設立し、1902年「神経学雑誌」を創刊した。序文には「或いは精神病と言ひ、或いは神経病と名づくるも、等しくこれ神経器官の機能障害にして、その徴候に多少の差異あるのみ。」と記した。

しかしながら、日本神経学会は1935年に日本精神神経学会と改称され、「神経学雑誌」は1936年から「精神神経学雑誌」となり現在に至り、一方で再度、日本神経学会が設立され、「臨床神経学」雑誌が1960年に創刊され、神経内科学の学術雑誌となった。その後は、一部の精神神経疾患を除いては、共有した研究活動が乏しかった。

しかしともに学問として、「脳」という臓器を病因病態の解明の出発点にしてきた。

その後、精神科領域では、「脳臓器」からいささか距離のある力動的精神医学や精神分析学などの成立があったが、「脳」を観察することはたゆまずなされてきた。そのような脳と臨床の観察から、たとえばレビー小体型認知症の疾患単位が見いだされる成果につながってきた。一方で精神医学の大きな謎である統合失調症の病態解明においては、脳の観察において盛んになされた時代はあったが、一時は衰退して“schizophrenia is the graveyard of neuropathologists”とまでいわれた。

しかしその後の神経画像や分子精神医学の進歩によって、近年、統合失調症の脳組織病理に強い関心もたれるようになってきている。

一方、神経科領域でも、神経心理学等の発展とともに神経症状ばかりでなく、脳変性にもなっており、その認知機能に関心が持たれるようになり脳機能との関連が論じられるようになってきている。それは、すくなくとも精神医学にも大きな影響をあたえ、精神疾患の認知機能が様々な側面から研究されている。

神経科と精神科が分離したことを、神経学者で小説家でもあるオリバー・サックスは「魂のない神経学と、体のない心理学」になったと皮肉っている。このミニシンポジウムは、脳病理をキーワードに、精神科の立場から尾崎紀夫先生（名古屋大学）に、“統合失調症 死後脳研究の時代 —From the graveyard to the fertile ground—”と題して近年の精神科領域での脳を観察することの重要性必要性について講演いただく。

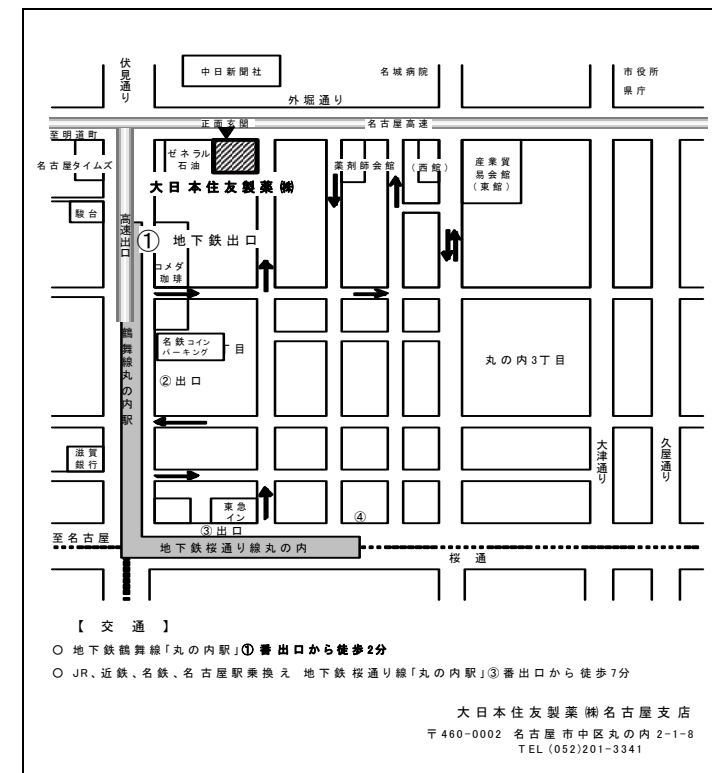
また神経内科の立場から、河村満先生（昭和大学）に、“パーキンソン病：神経心理的アプローチ”と話していただき、パーキンソン病の非運動性の症状にも着目する重要性を話していただく。精神科と神経内科が脳神経病理を共通基点にコラボレートする有用性について再度認識できればと考えます。

当番世話人 入谷修司

## 第50回 名古屋臨床神経病理アカデミー プログラム

日 時	2013年7月13日(土)
	9:30~13:00(開場9:00) 標本展示・鏡検
	12:00~12:45 世話人会
	12:45~13:00 学術情報
	13:00~16:05 症例検討会
	16:10~17:40 第50回記念ミニシンポジウム

会 場 大日本住友製薬(株)名古屋支店5Fホール(052-201-3341)



- \* 抄録をA4版で2~3ページ程度にまとめて7月9日(月)までに事務局に送付をお願いします。事務局にて抄録を印刷致します。期日までにご都合がつかない場合は当日9:30に受付へ提出して下さい。
- \* 症例検討は、PCによる症例呈示13分、討論12分をお願いいたします。
- \* 当日会場にて参加費1000円のご協力をお願い申し上げます。

当番世話人・事務局

名古屋大学大学院医学研究科 精神医療学講座 入谷修司

Phone :052-744-2282(内線)2282 Fax :052-744-2293

email:iritani@med.nagoya-u.ac.jp

# 第 50 回 名古屋臨床神経病理アカデミー プログラム

12:45~13:00 学術情報 大日本住友製薬株式会社

## 症例検討会 [神経精神疾患の臨床と病理]

[1] 13:00~13:30 座長 柴山 漢人 (あさひが丘ホスピタル)

### 「嫉妬妄想が前景化した 83 歳女性アルツハイマー病の 1 例」

- 1) 名古屋大学精神科 ◎藤城弘樹、入谷修司
- 2) 桶狭間病院藤田こころケアセンター 服部美穂、松永慎史、藤田潔
- 3) ミサトピア小倉病院 関口裕孝
- 4) 守山荘病院精神科 鳥居洋太、梅田健太郎
- 5) 城山病院精神科 羽瀨知可子
- 6) 愛知医科大学加齢医科学研究所 吉田眞理

[2] 13:30~14:00 座長 岩田 拓 (城山病院)

### 「悪性リンパ腫の治療中、異常行動が遷延した 75 歳男性の 1 剖検例」

- 1) 守山荘病院精神科 ◎鳥居洋太、梅田健太郎
- 2) 名古屋大学大精神科 藤城弘樹、入谷修司
- 3) 桶狭間病院藤田こころケアセンター 服部美穂、松永慎史、藤田潔
- 4) ミサトピア小倉病院 関口裕孝
- 5) 城山病院精神科 羽瀨知可子
- 6) 愛知医科大学加齢医科学研究所 吉田眞理

[3] 14:00~14:30 座長 亀山 隆 (中部労災病院)

### 「頸髄中心灰白質と大脳白質に MRIT2 高信号を認めた全経過 4 年の 56 歳男性」

- 1) 安城更生病院神経内科 ◎井汲一尋、安藤哲朗、同病理部 酒井優
- 2) 愛知医科大学加齢医科学研究所 辰己新水、三室マヤ、岩崎靖、吉田眞理

~~~~~休憩5分~~~~~

[4] 14:35~15:05 座長 饗場 郁子 (東名古屋病院)

### 「行動異常で発症し前頭側頭型認知症が疑われた 70 歳女性例」

- 1) 愛知医科大学加齢医科学研究所 ◎岩崎靖、辰己新水、三室マヤ、吉田眞理
- 2) 小山田記念温泉病院神経内科 森恵子、伊藤益美

[5] 15:05~15:35 座長 安井 敬三 (名古屋第二赤十字病院)

### 「緩徐進行性失語症を呈した全経過 13 年の 76 歳男性」

- 1) 碧南市民病院神経内科 ◎伊藤慶太、鈴木究、土井秀樹
- 2) 岡崎市民病院 梅村敬治郎
- 2) 愛知医科大学加齢医科学研究所 岩崎靖、辰己新水、三室マヤ、吉田眞理

[6] 15:35~16:05 座長 後藤 洋二 (名古屋第一赤十字病院)

### 「著明な起立性低血圧で発症し認知症をきたした全経過 12 年の 81 歳男性」

- 1) 長寿医療センター神経内科 ◎武田章敬、梅村想、鷲見幸彦
- 2) 愛知医科大学加齢医科学研究所 辰己新水、三室マヤ、岩崎靖、吉田眞理

~~~~~休憩5分~~~~~

16:10~17:40

名古屋臨床神経病理アカデミー  
第 50 回記念ミニシンポジウム

## テーマ 「精神疾患と神経疾患の再癒合」

進行: 入谷 修司 (名古屋大学)

### 「統合失調症死後脳研究の時代

-From the graveyard to the fertile ground-

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学

尾崎 紀夫 先生

### 「パーキンソン病: 神経心理学的アプローチ」

昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門

河村 満 先生

尾崎紀夫先生

【略歴】 名古屋大学大学院 医学系研究科 精神医学・親と子どもの心療学分野 教授  
1982 年 3 月 名古屋大学医学部卒業  
1987 年 7 月~1990 年 6 月: 中部労災病院精神科医師  
1990 年 7 月~米国 National Institute of Mental Health, Visiting Fellow  
1995 年 9 月~藤田保健衛生大学医学部精神医学教室講師  
1998 年 5 月~藤田保健衛生大学医学部精神医学教室教授  
2003 年 10 月~名古屋大学大学院 医学系研究科精神医学・親と子供の心療学分野教授  
名古屋大学医学部附属病院精神科・親と子供の心療科科長

河村満先生

【略歴】 昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門教授  
1977 年 3 月横浜市立大学医学部卒業  
1978 年 10 月~千葉大学医学部神経内科(平山恵造教授)開設時に入局  
1983 年 8 月~同助手。1994 年 1 月同講師  
1994 年 2 月~昭和大学医学部神経内科助教授  
2001 年 6 月~昭和大学医学部神経内科教授  
2008 年 4 月医学部講座再編による名称変更  
昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門教授  
昭和大学病院附属東病院院長

閉会の辞および次回開催連絡(愛知医科大学加齢医科学研究所)

共催 名古屋臨床神経病理アカデミー  
大日本住友製薬株式会社